

抗プラスミン療法

炎症篇

第一製薬株式会社

発刊に思う

終戦直後、はじめて生理学の講義を担当したころ、Wiggers の名著 “Physiology in Health and Disease” の旧版に血液 proteinases (複数) の一項目があった。

この一節に感銘し、そこに引用した原著をむさぼり読み、古典的な《分子病理学》もしくは《酵素病理学》の存在をはじめて知った。すなわち “種々の proteinases が血漿性にあるいは白血球性に組織間隙に出現し、炎症・アレルギーを修飾する” というのである。

当時は全く《新しいカテゴリー》の治療原理として1947年に発足した抗プラスミン療法の系譜も、あるいは Wiggers にさかのぼることもできよう。

しかし、この抗プラスミン療法の研究は日本の医学史上、稀有な事例とさえいわれる《日本医学者の中広い長期間の協同研究》によって、今日の強固な地歩を確立し得たのである。またこの歴史を反映して、関連する日本の諸研究は今日なお諸外国の注目するところである。

しかしながら、抗プラスミン療法のあずかる領域は予想外に広く、従来の部厚い専門書をもってしても、必ずしもすべてを網らしたものとはいえないのである。

ここに刊行された本書は、基礎、臨床の第一線の方々がそれぞれの専門の立場から、豊富な蘊蓄を平易に、かつ実用性に富んだものに、まとめられたものである。しかも従来のこの種の著書と異なり、《炎症と抗プラスミン》の問題に焦点をしぼり、読者に新しい興味を呼び起こそうとするものである。

本書がひとりでも多くの読者に読まれることを期待し、ここに推薦する次第である。

目次

発刊に思う……………神戸大学医学部 第一生理 岡本 彰 祐

〔I〕上気道炎症とプラスミン

● 総 説

- 上気道炎症における抗プラスミン剤の臨床的意義…………… 1
札幌医科大学 耳鼻咽喉科 形 浦 昭 克
- 上気道炎症の線溶と病態生理について…………… 8
城西歯科大学 耳鼻咽喉科 佐々木 好 久

● 私の見解

- 抗プラスミン剤の使用法に関する見解…………… 16
九州大学医学部 耳鼻咽喉科 広 戸 幾 一 郎
- 扁桃における炎症と免疫反応…………… 18
新潟大学医学部 耳鼻咽喉科 猪 初 男
- “炎症と抗プラスミン”その意義に対する私見…………… 20
長崎大学医学部 耳鼻咽喉科 隈 上 秀 伯
- 抗プラスミン製剤の抗炎症に関する私見…………… 22
日本大学医学部 耳鼻咽喉科 齋 藤 英 雄

● 私の研究

- 鼻咽腔炎と線溶…………… 25
都立豊島病院 耳鼻咽喉科 田 中 省 三
- 口腔内分泌液のプラスミン—口腔内の線溶活性機序とその病態—…………… 30
愛知医科大学 第一生理 梶 江 勇
- 実験的口内炎と線溶活性…………… 34
鹿児島大学医学部 口腔外科 山 下 佐 英
- 上顎洞粘膜のプラスミン活性…………… 38
広島大学医学部 耳鼻咽喉科 原 田 康 夫

● 上気道炎症の抗プラスミン療法

■ 急性扁桃炎

悪寒・発熱の伴うとき—内科外来— 42

名古屋大学医学部 第一内科 伊藤和彦

小児科での治療 44

札幌医科大学 小児科 我妻嘉孝

嚥下困難なとき 46

高砂市民病院 耳鼻咽喉科 岡 瞳 邦

解熱剤との併用も 48

市立秋田総合病院 耳鼻咽喉科 田中 弘

膿栓・白苔が強いとき 50

名古屋市立大学医学部 耳鼻咽喉科 馬場駿吉

抗生物質との併用 52

名古屋市立病院 耳鼻咽喉科 菊田宣男

■ 慢性扁桃炎

局所異和感のある症例 54

名古屋大学医学部 耳鼻咽喉科 伊藤明和

■ 急性咽喉頭炎

“かぜ”が原因の症例 56

公立学校共済組合関東中央病院 耳鼻咽喉科 南条昭一

メブロンと併用して 58

星ヶ丘厚生年金病院 耳鼻咽喉科 樫田平次

急性咽喉頭炎の発赤と腫脹に 60

国立金沢病院 耳鼻咽喉科 谷 一郎

點頭てんかんを伴った脳性まひ児—繰り返される急性咽喉頭炎に— 62

国立小児病院 神経科 岡田良甫

■ 慢性咽喉頭炎

トランサミンとメブロンを併用した例 65

山形県立中央病院 耳鼻咽喉科 大竹欣哉

〔II〕 皮膚疾患とプラスミン

● 総 説

皮膚における炎症とプラスミンの役割…………… 89

広島大学医学部 皮膚科 矢村卓三・石原紘 広島鉄道病院 皮膚科 出来尾哲

皮膚疾患の線溶動態と抗プラスミン剤投与の意義について…………… 96

岩手医科大学医学部 皮膚科 伊崎正勝

● 私の見解

皮膚疾患とプラスミン…………… 110

慶応義塾大学医学部 皮膚科 猿野倫

薬剤の効果判定について…………… 112

日本医科大学 皮膚科 宗像醇

炎症性皮膚疾患の抗プラスミン療法…………… 114

福岡大学医学部 皮膚科 樋口謙太郎

● 私の研究

プラスミンの細血管透過性充進作用の電顕的観察…………… 116

三重大学医学部 山田内科 山田外春・出口克己・河合誠一郎・竹内敏明

PCA反応とプラスミン、抗プラスミン…………… 122

京都府立医科大学 第三内科 近藤元治

実験的アレルギー性接触皮膚炎と抗プラスミン剤…………… 126

仙台通信病院 皮膚科 宮沢慎二

皮膚組織の線溶活性…………… 130

徳島大学医学部 皮膚科 重見文雄

皮膚の局所線溶…………… 134

国立名古屋病院 皮膚科 安江隆

表皮由来線溶インヒビター…………… 141

大阪大学医学部 皮膚科 西岡清

抗Plasmin剤トランサミンおよびイブシロンのラットにおける抗炎症作用…………… 144

岡山大学医学部 薬理 山崎英正

湿疹・皮膚炎と線溶系	150
鹿児島大学医学部 皮膚科 児浦純義	
●皮膚疾患の抗プラスミン療法	
■癢疹を主訴とする疾患	
抗ヒスタミン剤と併用して	156
山口大学医学部 皮膚科 藤田英輔・麻上千鳥	
パントシンと併用して	158
飯塚病院 皮膚科 中村昭典	
急性湿疹のかゆみに	160
東北大学医学部 皮膚科 三浦隆	
外用剤と併用して	162
国立別府病院 皮膚科 古屋英樹	
蕁麻疹の痒みに	164
高松赤十字病院 皮膚科 中北隆	
食餌性蕁麻疹の場合	166
弘前大学医学部 皮膚科 菅原光雄	
皮膚炎の痒みに	168
名古屋大学医学部 皮膚科 大橋勝	
化粧かぶれの場合	170
信州大学医学部 皮膚科 大久保正己	
■滲出傾向を伴う疾患	
貨幣状湿疹に対して	172
北海道健康保険北辰病院 皮膚科 中村準之助	
自家感作性皮膚炎とトランサミン-アレルギー性皮膚病変を中心にして	174
富山市民病院 皮膚科 松本録一	
接触性皮膚炎-他剤と併用して-	178
自治医科大学 皮膚科 林 忠	
結節性紅斑の滲出傾向に	180
久留米大学医学部 皮膚科 丸田宏幸	

薬疹の場合	182
九州大学医学部 皮膚科 旭 正 一	
多形日光疹（水疱型）とトランサミン	184
神戸大学医学部 皮膚科 市 橋 正 光	
多形滲出性紅斑—外用剤と併用して—	186
東京慈恵会医科大学 皮膚科 古 谷 堯	
■ 老人の皮膚病	
老人の‘かゆみ’—主として多形慢性痒疹について—	190
東京都養育院付属病院 皮膚科 山 本 達 雄	
紅皮症に使用して	192
岩手医科大学 皮膚科 昆 宰 市	
多形慢性痒疹—他剤と併用して—	194
市立小樽病院 皮膚科 鳴 崎 匡	
■ 小児の皮膚病	
急性蕁麻疹に使用して	196
国立小児病院 皮膚科 山 本 一 哉	
小児ストロフルスの治療に	198
岡山大学医学部 皮膚科 吉 田 彦 太 郎	
■ 血管炎	
硬結性紅斑の症例に	200
大阪大学医学部 皮膚科 奥 村 雄 司	
● 付 録	
プラスミン研究小史	202
製品紹介 上気道炎症、皮膚疾患に	204